

令和3年度 卒業書授与式式辞

例年になく長く感じられた冬も終わり、ここ杉原谷の里にも春の訪れが感じられます今日の良き日に、多可町教育委員 木俣美代子様、地域共生担当理事 藤原正和様、学校教育課指導主事 藤本秀晃様のご臨席のもと、令和3年度の卒業証書授与式を執り行えますことは、本校にとりましてこの上ない喜びであります。

今だ新型コロナウイルスに翻弄される日々が続く、今年もまた規模を縮小しての卒業証書授与式となりました。ただ参列いただいている皆さんはもとより、ここにはない低学年の児童も、教室にて卒業生の門出を祝ってくれていることをお伝えしておきます。

さて、杉原谷小学校を巣立つ23名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さん一人一人に卒業証書を手渡しました。自らの力で漕ぎ上げた地域のそして本校の伝統である杉原紙の卒業証書には、6年間の皆さんの努力の足跡がすべて刻まれています。大きなランドセルにあふれるほどの夢を詰め込んで登校した入学式。1時間の授業を受けるのがやっとだった皆さんは、多くの経験を重ね、いくつもの節目を乗り越えて、心も体もたくましく成長を遂げてくれました。

特にこの一年間は、期待通りの、いやそれ以上の頼りになる六年生でした。コロナ禍により厳しい一年間となりましたが、最高学年として強い精神力と忍耐力で杉原谷小学校を立派にリードしてきました。

まず強く心に残っているのは、授業開始前後の挨拶です。皆さんの学習に向かう熱い思いが「お願いします」「有り難うございました」の言葉に込められており、挨拶はその人の心を表していることを改めて教えてくれました。また朝会や下校時の待つ姿勢や聞く態度も申し分のないものでした。平素からの「当たり前」の事を当たり前にする態度は皆さんの真の力であり、人間として最も大切にしなければならない力だとすべての児童に気づかせてくれたのは皆さんです。

1年生の歓迎会や運動会などの行事でも杉原谷小学校を一つにまとめ上げました。自分を優先するのではなく、まずは下級生や周りの人々の思いに目を向け行動する姿は、下級生の手本であり、憧れでもありました。皆さんがいたから、下級生は楽しい日々を送ることができました。そして、先生達も、安心して皆さんに全ての役割を任せることができました。皆さんのこの一年間のがんばりに心から拍手を送りたいと思います。

さて、右上に掲げられた校歌を見てください。校歌の中には素晴らしい歌詞がたくさん出てきます。皆さんはどの歌詞が好きですか。私は2番の『心をみがき 身をねりて』という言葉が一番好きです。心そして身を磨き練ること。この中の『ねる』という言葉には、「鍛えてより良い物にしていく」という意味と「行きつ戻りつしなが

ら前進していく」という意味があります。小学校から中学校へ。そして社会へと階段をのぼる皆さんへの心構えをこの言葉は教えていると思います。自分の見つけた目標に向かって、自分の心や体を鍛えていくこと、それは決して平坦な道ではなく、くじけそうになったり、後戻りしたりすることもあるけれど、諦めずに鍛え続けることで確実に目標に向かい進んで行くことが大切です。卒業生の皆さんには『心をみがき身をねりて』の歌詞を心にとめ、自らのめざす道を切り開いてくれることを願っています。

保護者の皆さまにご挨拶申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。保護者の皆様におかれましては、立派に成長されましたお子様の今日の姿をご覧になり、感慨も一入のことと拝察いたします。それとともに、6年間にわたって本校教育に深いご理解とご支援を賜りましたことに厚く感謝申し上げます。

最後になりましたが、本日ご臨席を賜りました皆様、そしてご臨席はいただいておりますが、子どもたちを支えていただいた多くの地域の皆様には、今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、卒業生の皆さん、新たな旅立ちの時がやってきました。伝統ある杉原谷小学校の卒業生として誇りを持ち、力強く羽ばたいてください。『強く 明るく 温かく』皆さんの更なる活躍を期待しています。

令和4年3月23日

多可町立杉原谷小学校長
吉田 重徳